



すが、その時お目にかけて資料を気に入られたとみえてそれを「ほしい」といわれ、さしあげたのでした。それほどよくお分かりいただいたのでお祝辞は大丈夫だと思つて帰つたのでした。

ところがその後、国語協会の事務局から手紙が来て、「協会は創立、日も浅く、今日まで祝辞など出したことがないから出せない」といつて来たのです。それで私は残念に思い、近衛公爵に手紙を出したので

す。「私の誠意が通じなかつたと思う」といつて熱文を書いて出したのです。それから何日か過ぎた後でした。文部省に用事があつて行つたとき、国語協会の事務をとつておられる文学博士のところを通つたのです。するとその文学博士の人が「今ちょうど、あなたのところに出す祝辞を書いているところです」といわれ、書いたものを見せていただいたのでした。私が近衛公爵に手紙をさしあげたので近衛公爵から出すようにいわれたものと思われるのです。最初出さない、といつて手紙をよこしたのは事務局で勝手に判断して出したものと思われるのです。近衛公爵から出すようにいわれて出すことになり、それを書かれたものと思われるのです。近衛公爵はその後、戦時中、総理大臣になられ、終戦直後、